

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	社会福祉法人自立共生会 ひかりの里 2階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果市町提出日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470100658-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 25年 11 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念“お年寄りの底力を生かす”を実践し、利用者の昔取った杵柄(かまどでのご飯炊き、お料理、畑仕事、裁縫等)を子どもや職員に教えて頂き、また、外出・買い物・散歩等のついでに防犯パトロールを行っております。障がいに関わらず子ども達とも様々な交流をしており、日々の生活の中で役割を持って、尊敬され、感謝される存在となつて頂けるような環境作りを行っています。地域の自治会の活動として、地域清掃や小学校の運動会の応援や文化祭の出店等も行って、認知症高齢者の底力を地域の中で発信しています。日々の生活の中で、利用者の思いや自己決定が尊重されるよう、利用者の思いを大切に考え、地域で暮らす一住民として、その人らしい生活ができるよう、温かく支援してくれるスタッフがたくさんいます。また、重度になつても、最後まで安心した生活が送れるよう、医療チームとの連携を図っており、ターミナルケア・看取りの取り組みも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2003年設立当初から「お年寄りの底力を活かす」ことを法人理念に掲げている。職員の認識レベルは高く、利用者も自分の経験を活かした役割分担や児童クラブの子どもたちとの交流で、非常にいい笑顔である。自治会との関係も良く、防災では災害時の避難等についての協定を結ぶところまで来ている。地域の行事や小学校の行事には積極的に参加しており、小学校でのお祭りで「わらび餅」販売は好評である。家にいるより事業所に来ている方が楽しいと、若い職員は言うほど事業所内の雰囲気も良く笑顔がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として「お年寄りの底力を生かす」を掲げており、利用者一人ひとりが、能力や昔取った杵柄を生かした役割を持って活躍できるような環境作りを行い、その理念を実践につなげている。	理念の共有は出来ており、「底力」を生かすことで利用者が自信回復し、生きがいを持つことにより変わってくるのがわかる。新人には利用者個々に力を生かせる役割をみつけるよう、チームで考えて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ゴミ出しや、地域清掃、親睦会、地区防災訓練、地域の文化祭等に参加している。また、スーパーへ買い物や、毎日の防犯パトロールや朝のゴミ出しの際、近隣の方と挨拶を交わすなど、日頃から日常的な交流をしている。	近隣とは日常の挨拶をはじめ、通夜に参加する等の付き合いをしているし、自治会とも定期的な清掃から祭りなどの催し物には必ず参加している。小学生の下校時には利用者が迎えに出かけているし、学校の祭りにはわらび餅を売る等、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	視察、見学、認知症見守りボランティアの受け入れ、家族の集いに地域の民生児童委員に参加して頂き、認知症の人の理解や支援の方法を広げている。また、夏祭りには地域住民やボランティアにも参加して頂いたり、地域の小学校の文化祭や運動会への参加等で認知症の人の理解のきっかけ作りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に桑名市介護高齢福祉課、地域包括支援センター、第三者委員、自治会長、ご家族の方等に参加して頂き、サービスの実際や評価への取り組み状況等について、様々なご意見を頂き、サービス向上に活かしている。	年6回の開催も定着しつつあり、事業所運営の1つのツールになってきている。この1年は防災訓練に力をいれ、会議メンバーの参加もあり、意見をいただいている。自治会とは防災協定を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	桑名市介護支援ボランティア受け入れ施設、徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関となっている。また、桑名市地域包括支援センター認知症見守り安心ボランティア教室の実習受け入れをしている。また、成年後見制度利用等で介護高齢福祉課・社会福祉協議会、地域包括支援センターなどとも連携している。	市や包括、社協から各種の実習生や研修会、体験等の依頼があり、すべて受け入れている。また、施設長や管理者が運営推進会議関係や認定更新など積極的に情報連絡を密に取るようにしており、連携はよい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、研修等を通じて、身体拘束をしないケアを全職員が学ぶ機会を持ち、身体拘束ゼロへの取り組みを行っている。万が一どうしてもそのようなケアが必要となる場合、事前にご家族へ書面にて承諾を得てから、記録に残すことになっている。	年間研修計画の一つに身体拘束があり、全職員が勉強しているし、各スタッフ間でも検討している。言葉の拘束についても各人が注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について資料配布や研修会などをひらき、虐待について学ぶ機会を持ち、職員一人ひとりの意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度についての資料配布、研修会を行い、理解を深めている。また、中央包括、地域包括と連携をとり、成年後見制度を利用者もおり、後見人との連携を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、本人やご家族と十分に話し合う時間を設け、不安や疑問点を話しやすいようにしている。また、書類の改定時は書面と共に、家族会などで出来る限り直接説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談窓口、苦情相談員を設けている。また、月1回のケアカンファレンス時に利用者や家族の意見・要望を伺うよう、努めている。苦情や要望があった場合、受付表を利用し、話し合う時間を設けて改善できるようにしている。	家族の面会時や3ヶ月に1回のカンファレンス会議、年2回の家族会等で家族からの意見・要望の吸い上げに努力している。面会のない方や欠席の方へは電話や別の日に来られた時に、利用者の様子について詳細話している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケアカンファレンス時や「月間報告書」等で意見や提案を出したり、各ユニットの意見は主任がまとめ、週1回の管理者ミーティング時に報告を行い、運営に関する職員の意見を反映させている。	事業所独自の「月間報告書」を毎月全員が提出することになっており、その中に業務改善や事業所の雰囲気作りについても意見を出すことになっている。毎月全職員が必ず提出しており、意見もたくさん出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の部署活動、委員会活動の報告書などを提出し、施設長が個々の努力、実績を把握した上で、コメントを行い、返却している。各自がユニットのみならず積極的に活動へ参加し、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には一定期間、管理者や主任が付き、業務マニュアルやケアプランに沿って、利用者の状況と対応などを指導する。又、法人内外と研修参加の機会を設けたり、月に数回、ウェルネスでの研修会を開き、職員のスキルアップの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会、NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークや日本認知症グループホーム大会等、他機関との情報交換やネットワーク作り、職員の研修会への参加や事業所見学の受け入れ等を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階から、ご本人の生活歴、家族関係に配慮しながら、本人が困っていることや要望等を聞く機会を設けている。本人が安心して生活して頂ける様、話し合いをもち、希望に沿うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族の思いや本人の普段の様子、不安な事、要望等を伺い、利用の際に希望に沿えるよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャー、相談員、入居前のサービス事業者、必要に応じ医師や看護師との連携をとりながら、本人やご家族が必要としている他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重し、またできる事に合わせ、それぞれが役割を持ち、互いに支え合い、暮らしを共にする関係作りを、他の入居者や職員・ご家族等と行っていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にケアカンファレンスに参加して頂き、共に本人のケアを考え、要望も教えて頂いている。ホテルでの食事会や餅つき、夏祭り等の行事にも参加して頂き、日頃のご本人の様子は、月に一度お便りを郵送し、お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣や石取祭、公園やショッピングセンターなど、馴染みの場所への外出機会を作り、ご家族にもご協力頂きながら、馴染みの人との交流のきっかけ作りをしている。馴染みの人や場での話を傾聴し、馴染みの人や場を思う気持ちを大切にしている。	馴染みの神社へ初詣に行ったり、馴染みの服屋に外出着を買いに行ったり、回転寿司には年数回は出かけている。家族と一緒に外出することも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の思いを尊重し、一人ひとりが孤立しないよう、利用者同士が互いに支え合えるような関係づくりの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かしらの理由で退居された方であっても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて訪問し、本人・ご家族の状態や今後の方針について、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人記録やセンター方式を活用し、入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を把握・記録できるように努め、申し送りやケアカンファレンスの時に必要な情報が共有できるよう努めている。	「お年寄りの底力を活かす」アンケート資料があり、それに基づいて、利用者本人や家族から思いや意向を把握している。誕生日に食べたいものや催し物の日に着たい着物など、利用者の希望や意向は多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等、できる限り本人・ご家族と情報を共有している。又、入居後も日々の生活の場面で情報収集に努めている。過去の生活をまとめた自分史を作成し、新しい職員にもその方の生い立ちを理解しやすいよう、工夫を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やセンター方式を活用することで、職員全員が生活場面での気付き、本人の発言や心身状態を記録することで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人の意見・要望等を伺い、毎月のケアカンファレンスに活用している。できる限りご家族にも参加して頂き、参加できないご家族にも面会時や電話にて現状の報告・情報交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	一人の利用者について全職員が意見を出す方式であり、日頃の意見をまとめ、月1回のカンファレンスに掛け、3ヶ月に1回の介護計画書作成につなげている。医療関係者の意見をはじめ、家族にはサービスに関する満足度評価をしていただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の様子や発言、ケアプランの短期目標の達成状況等を記録している。更新のあったケアプランはユニットの職員全員が確認し、情報を共有している。往診時には医師の意見を伺い、次回のケアプランの更新に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに応じた外出や買い物等、柔軟な対応を行っている。本人・ご家族様・ボランティアを交えた行事で交流を深めたり、入居前に利用されていた施設の訪問等で情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時ボランティアを受け入れており、自治会の広報の配布や回覧板、地域清掃、散歩を兼ねた防犯パトロール、資源ごみの回収、地域の青少年育成藤ヶ丘地区の小学校の文化祭・運動会の参加、地区防災訓練に参加し、地域の中で力を発揮して頂けるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と随時連携を図り、毎週の往診時に利用者の様子を伝え指示、助言、服薬調整して頂いている。他の医療機関受診を希望、必要とされる際は、ご家族に伝え、ご本人の要望も伺いながら、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者全員が理事長を主治医としており、定期的に往診を受けている。耳・目・歯は個々のかかりつけ医であり、家族の都合の悪いときは職員が支援したり、往診に来ていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関と随時連絡を取り合い、医師の指示の下、看護師に対応して頂いている。利用者に応じた介護の相談も随時対応してもらっている。また、緊急時の入院や夜間、休日等の緊急時にも、看護師に対応して頂く場合がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリー等の必要な情報を医療機関に伝えて、連携を行っている。また、本人やご家族の希望に添うよう医療機関と情報交換や相談に努めている。日頃から連携医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、ご家族と話し合い、アンケートを記入頂き、ターミナルケアの希望を伺っている。また、利用者の状態に変化があった際は、本人、ご家族、医師、看護師、職員と共にその後の方針を話し合って支援を行っている。	重度になった時の「緊急時対応」同意書があり、今年8月にも事業所での終末期対応をしている。職員の意識も十分であり、利用者も特に動揺はなく、葬儀にも参列している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同グループ内の研修で看護師や消防署による心肺蘇生法、応急処置、急変時の対応を行っている。緊急時の緊急連絡網の整備を行った。又、施設内でのヒヤリハットを利用者ごとにまとめ、カンファレンスを行い、事故の多いポイントを職員が把握し、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震を想定した訓練を消防署立ち会いのもと実施している。防災訓練実施後に運営推進会議にて、自治会長や介護高齢福祉課、ご家族等に消防訓練に関する総括を頂いた。	年3回消防署員立会いで、火事・地震災害の消火・避難訓練をしている。夜間想定もしており、備蓄もほぼ1週間分ある。自治会・運営推進会議にもかけており、訓練時の立会いもお願いしている。	同様な事業所の火災事例もあり、また大規模地震も近い将来予想されている。多数の人命を預かっている事業所として、「想定外」は許されない。ぜひ訓練回数を多くして非常事態に備えられるよう準備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への支援では、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。特に声かけには注意を払っている。また、見学や取材に対してご家族に書面で了解を頂き、本人にも了解を得ている。	「トイレ」という言葉は使用せず、紙に書いて見てもらうようにしているし、本人の思いを確認するときでも、職員からは言わずに「相手の話すのを待つ」ようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表現することができるよう、その都度利用者の声や表情を読み取り、声かけを行うことで、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の会話を通して、またその時の心身状態に配慮し、役割の声かけを行っている。一人ひとりのペースを大切に、パトロールや外気浴、買い物を楽しんで頂き、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪ボランティアに来て頂き、利用者の希望する髪型に散髪して頂いてる。夏祭りや、正月には好みの着物を着て頂き、お化粧をして髪形を整えて、おしゃれを楽しんで頂いている。年2回の家族ら約100名でのホテル等での食事会にもおしゃれを楽しんで頂けるよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、味付け、盛り付け、片付けを職員と利用者が一緒に行っている。また、誕生日や行事等の献立を利用者と考えて、準備をしたり、作ったりすることで、季節を感じ、食事が楽しみになるような工夫をしている。	毎年嗜好調査をし、メニューは管理栄養士がつくり、食材は職員と利用者が買いに行ったり届けてもらったりしている。利用者も盛り付け、配膳・片付け・洗い終わった食器拭きなど、出来ることを手伝っている。昼食は事業所内保育の幼児と一緒に食べることが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量・水分量を個人記録に記録して、24時間を通して把握できるようにしている。また、医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士等の指導で摂食、嚥下機能に応じた食事の提供を行い、嗜好に応じた水分補給ができるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員で食前の嚥下体操行っている。嚥下に障害のある方には、食前のアイスマッサージ、食前・食後のSpo2測定、食後の歯ブラシやくるり～なブラシによる口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを、排泄チェック表にて、把握している。個々の利用者の排泄リズムを把握した上で、適切なタイミングで、トイレ誘導や声掛けを行っている。	利用者各人のプリストルスケールをつけ、排泄パターンを把握から全員布パンツを目標に努力している。また便秘にならないように、食べ物をはじめ水分を多く摂るよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の形態、水分等を利用者の状態や好みに合わせ、工夫している。また、医師の指示にて、下剤も服用するが、水分を多めにとって頂いたり、毎食お米に粉寒天を混ぜ食べて頂くなど、薬に頼らない便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り利用者のご希望に合わせた時間に入浴して頂けるよう支援を行っている。また、会話やマッサージを行い、ゆっくりと楽しく、リラックスしながら入浴して頂ける工夫をしている。	入浴を楽しいものとするため、脱衣所の温度や湯温を調整したり、好みの音楽をかけたりしているし、利用者の希望で、足や肩のマッサージをしている。2階には腰かけて入れる最新の機械浴槽がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣、身体状況に合わせて、休息して頂いている。安心して休息、睡眠をとって頂けるよう、環境を整えており、声かけや傾聴も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分けを職員が行い、薬の用法、用量、副作用を理解し、服薬支援を行っている。症状に異変があれば、直ちに医師、看護師に報告し、適切な処置が行える環境を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る力に合わせて、役割を持って、過ごして頂いている。又、利用者の能力を生かし、野菜作り、料理等を楽しんで頂いている。一人一人が何かの役割を持つよう、工夫し取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のご希望に応じ、外気浴、散歩、ショッピングセンターへの買い物、パトロールへ参加して頂いたり、ご家族と一緒に外出され、楽しんで頂けるよう支援している。また、地域のお祭りや小学校への外出等、様々な外出行事にも参加して頂いた。	全員が「1日1回はお日さんに当たる」ようにしており、防犯パトロールをかねた日常の散歩や、畑作業、子どもの出迎えなどの他、業務スーパーでの食材の買い物も多い。季節の花見や地域の催し物には積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には利用者本人で可能な限り金銭管理できるよう支援を行っている。使用する際の報告もご家族様に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお便りを通じてご家族とコミュニケーションをとっている。中には携帯電話を利用して、いつでもご家族と連絡出来る環境の方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間における床、テーブル、手すり等の掃除・消毒を念入りに行っており、換気にも注意している。フロアの音楽やテレビの音量調節、照明や室温の適度な調節に気を配っている。季節に応じた装飾や歌も楽しんで頂けるよう、工夫をしている。	3階建ての建物であり、1階と2階の居間兼食堂は床暖房になっているので、冬は暖かい。利用者が長時間おられる部屋であり、空調への気配りはもちろん、季節感を出すよう花を活けたり、利用者の作品や行事の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が座れるようなリビングの座席配置を行っている。天気の良い日は、玄関先やベランダのベンチで外気浴を楽しむ方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、衣類、食器、装飾品等は、利用者本人のなじみ深い物を使って頂けるように、ご家族様と相談し、居心地よく過ごせるよう、工夫をしている。	居間兼食堂にいる時間が長く、居室は寝るだけの部屋という感じであるが、鏡や椅子、テレビ等を持ち込んだり、写真やカレンダーを壁に貼り付けたりと、自分の部屋作りをされている。手すりに紙袋をたくさんかけ、用途別に仕分けしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできる限り、自立した生活が行えるよう、共用の場所や居室に手すり、滑り止め、PTイレ等を設けている。そして家具も固定化する等、工夫を行っている。また、車イスでも使用できる台所・洗面台に改修を行った。		